

R3年度 新人看護職員研修

1. 目的：自施設で研修ができない施設に勤務する看護職員、また自施設における研修受講後も看護技術に不安のある新人看護職員の実践技術向上と早期離職防止を図る。
2. 対象：研修未整備施設等の新人看護職員 原則、研修全期間出席できる方。
3. 定員：110名/全地区（30名/県央地区 60名/県南地区 20名/県北地区）
4. 受講料：無料
5. 会場等：

地区	開催場所	開催時期
県央地区	ながさき看護センター（諫早市）	5月17日～7月7日 月曜日/週
県南地区	長崎県看護協会長崎会館（長崎市）	5月18日～7月7日 火曜日/週
県北地区	看護キャリア支援センター（佐世保市）	5月21日～7月7日 金曜日/週

6. 研修内容：

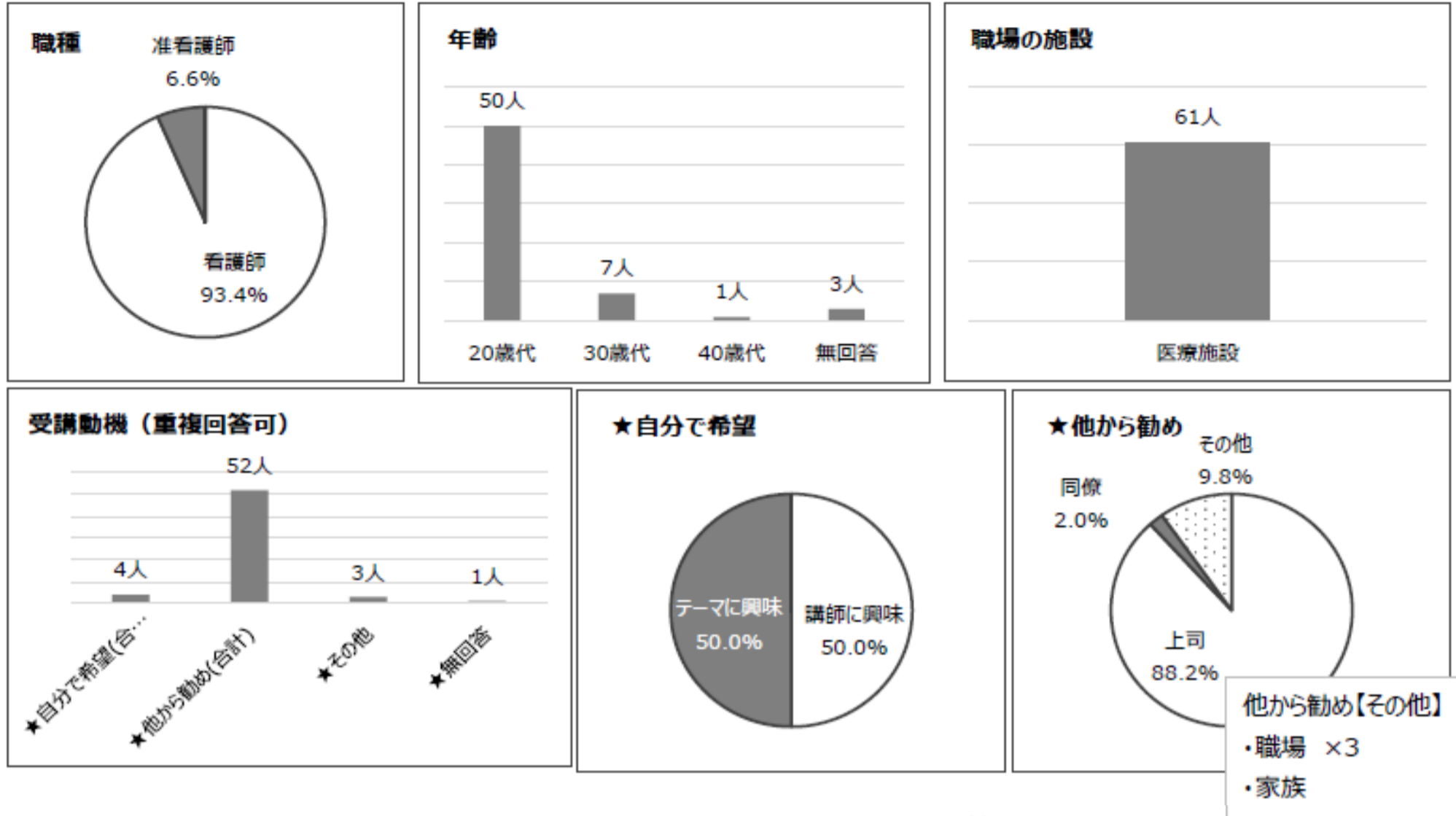
回	時間	県 央	県 南	県 北
1		※5月10日（月）*3地区合同 ながさき看護センター		
	13:30～16:30	第1回 新人看護職員交流会		
2		5月17日（月）	5月18日（火）	5月21日（金）
	10:00～10:30	オリエンテーション、自己紹介		
	10:30～12:00	新人看護職員研修の概要 生涯にわたる主体的な自己学習の継続		
3	13:00～15:30	感染防止の技術		
		5月24日（月）	5月25日（火）	5月28日（金）
	10:00～12:00	看護職員として必要な基本姿勢と態度(倫理)		
4	13:00～15:00	医療安全管理：組織体制・職員を守る体制・事故防止対策、発生時の対応		
		5月31日（月）	6月1日（火）	6月4日（金）
	10:00～12:00	チーム医療における自らの役割を知る、管理（情報・業務・災害防災等）		
5	13:00～15:00	与薬管理の講義：経口与薬・薬剤の管理・服薬後の観察・注射・輸液の管理		
		6月7日（月）	6月8日（火）	6月11日（金）
	10:00～15:00	*3地区 看護キャリア支援センター 症状・生体機能管理の講義・実技：フィジカルアセスメント		
6		6月14日（月）	6月15日（火）	6月18日（金）
	10:00～12:00	栄養管理の講義：食生活支援・食事介助・経管栄養		
	13:00～15:00	皮膚創傷管理の講義：創傷処置・褥瘡予防		
7		6月21日（月）	6月22日（火）	6月25日（金）
	10:00～15:30		10:00～15:00	10:00～15:30
	*看護キャリア支援センター 【実技研修】 与薬・皮膚創傷・栄養管理	*看護キャリア支援センター 【実技研修】 救急救命の講義・実技	*看護キャリア支援センター 【実技研修】 与薬・皮膚創傷・栄養管理	
8		6月28日（月）	6月29日（火）	7月2日（金）
	10:00～15:00		10:00～15:30	10:00～15:00
	*看護キャリア支援センター 【実技研修】 救急救命の講義・実技	*看護キャリア支援センター 【実技研修】 与薬・皮膚創傷管理・栄養管理	*看護キャリア支援センター 【実技研修】 救急救命の講義・実技	
9		7月7日（水）*3地区合同 ながさき看護センター		
	13:00～15:30	メンタルヘルス対策		
10		※12月21日（火）*3地区合同 ながさき看護センター		
	13:30～16:30	第2回 新人看護職員交流会		

※「新人看護職員交流会」は「新人看護職員研修」の中に必修科目として含まれます。（5/10・12/21）

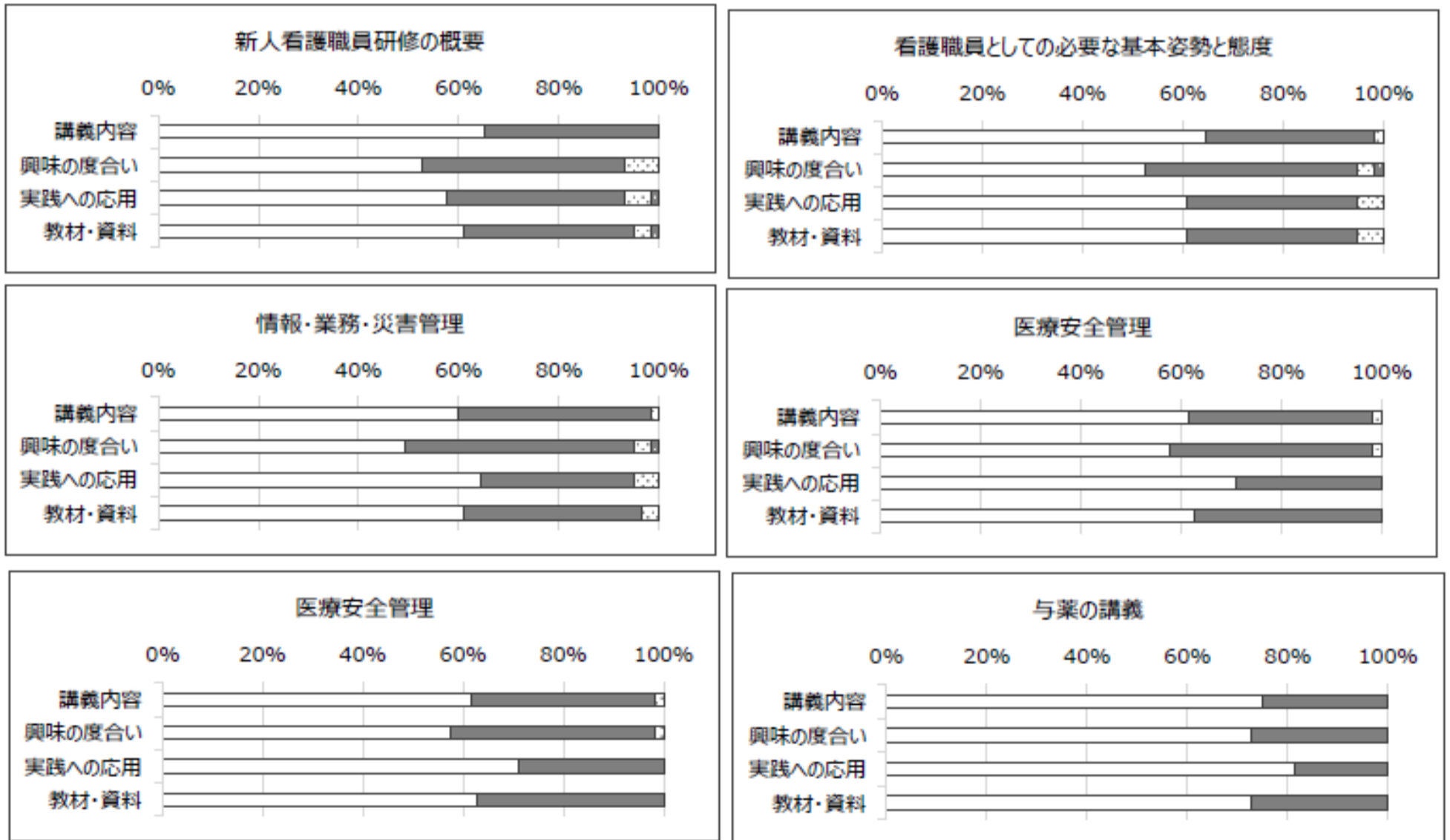
R3年度 新人看護職員研修

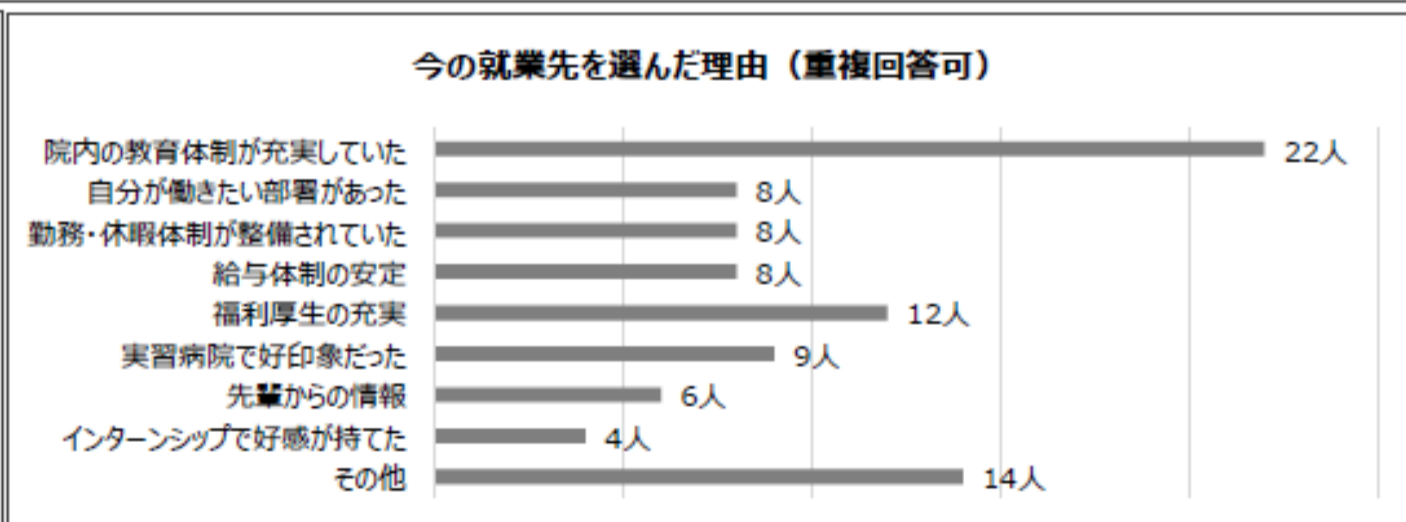
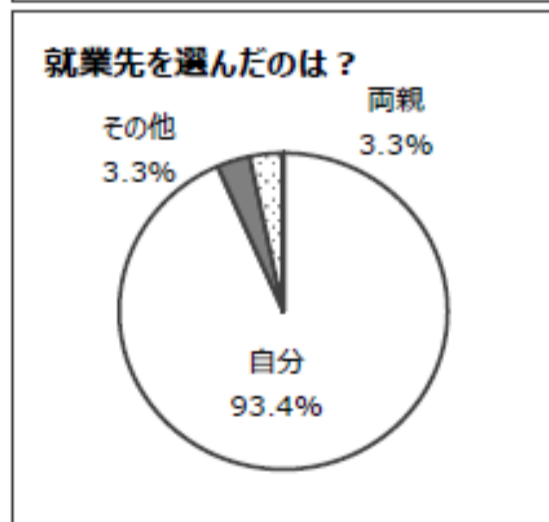
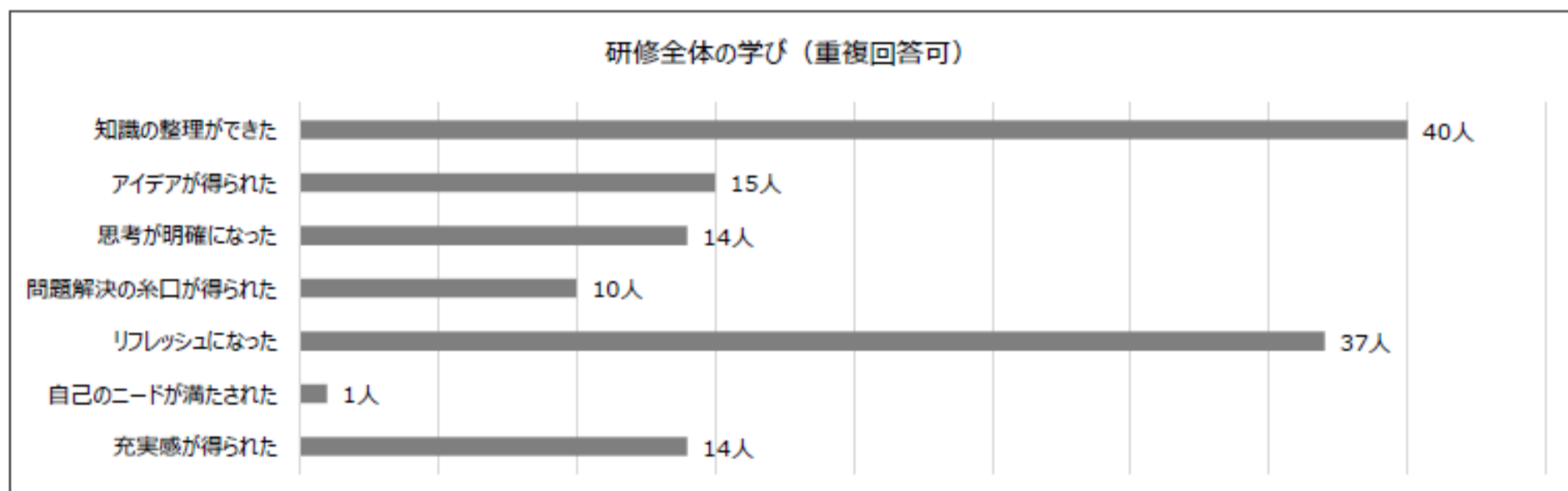
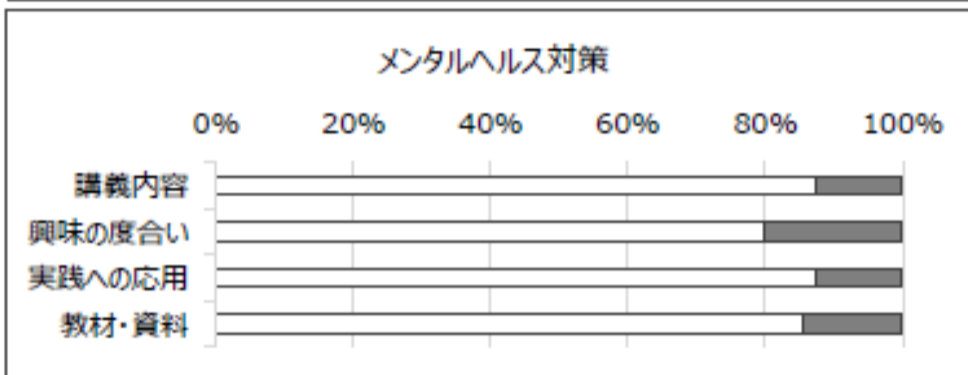
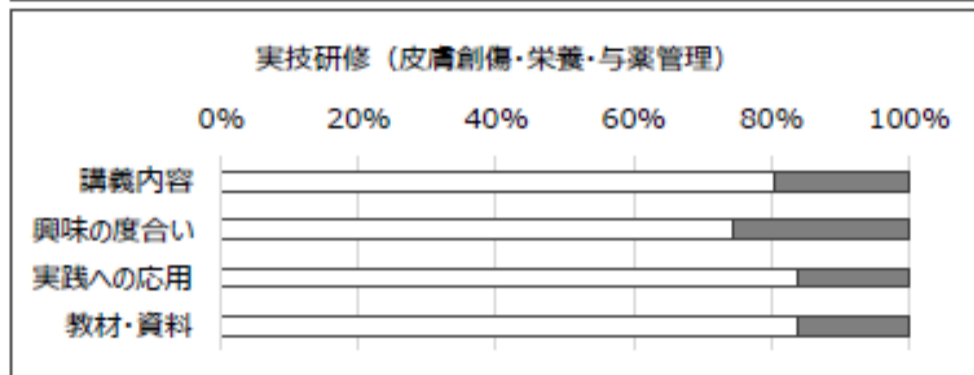
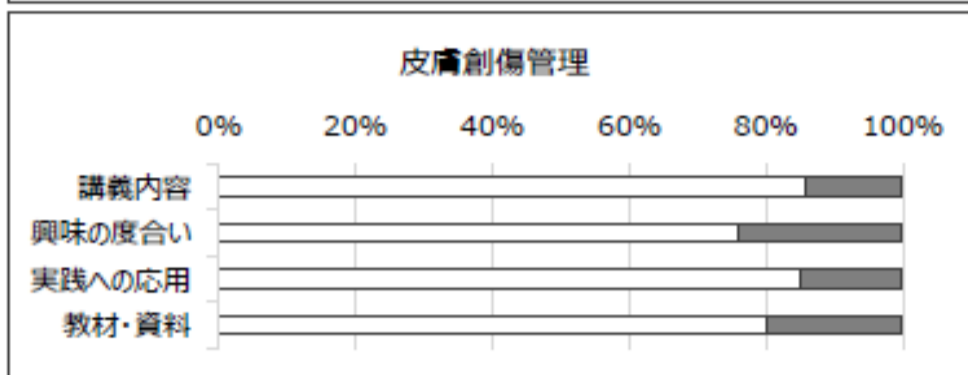
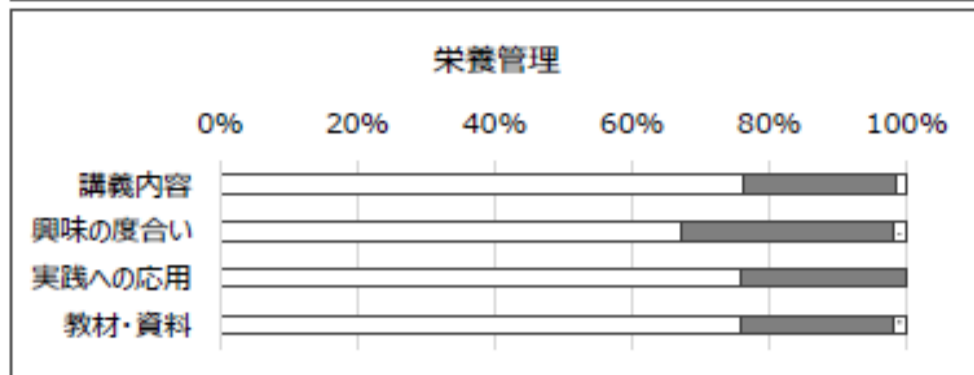
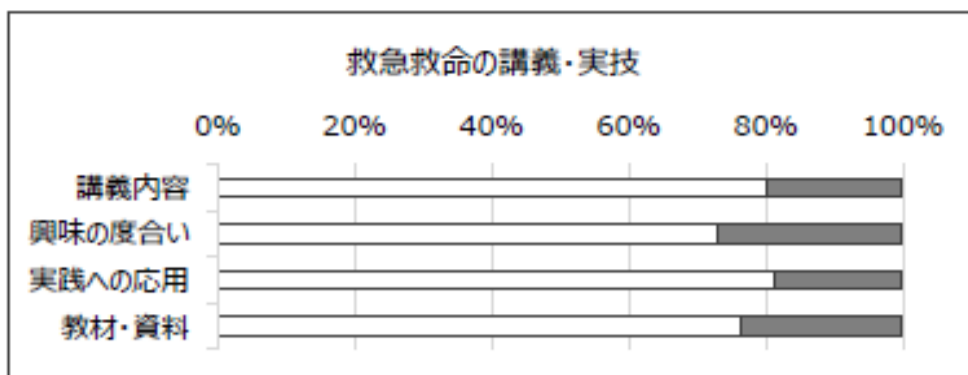
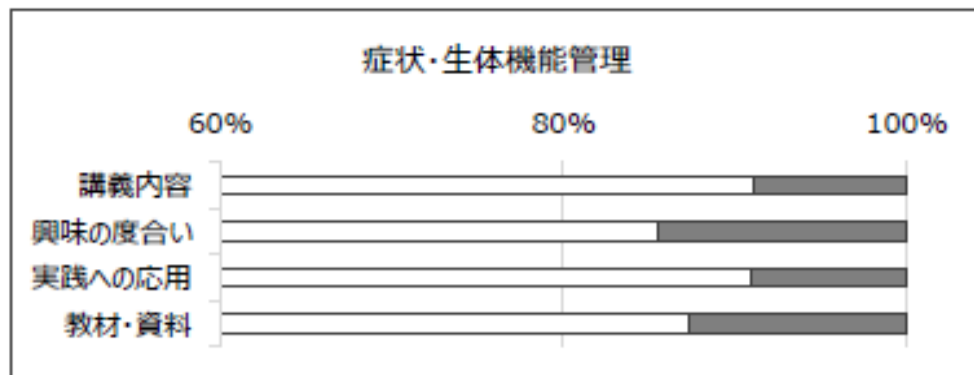
アンケート結果

回答数により、実際の受講者申込み数と違いがあります。



研修会について (凡例 □高い ■やや高い ▨やや低い ■低い ▨無回答)





受講者数	69人
回答者数	61人
回答率	95.7%

意見

- ・臨床につながるような知識・技術を多く得られた。
- ・今まで学習したことの振り返りや、こういう時にはこうしたらいいなど理解をさらに深めることができ良かった。
- ・シミュレータを使うことにより、現場を実践的に感じられ、具体的に学べた。
- ・実際に看護師として活躍されている先輩から実技を指導していただき、とても勉強になった。
- ・内容次第でオンライン開催もよいと感じた。
- ・他の新人看護師とコミュニケーションをとることでリフレッシュになった。
- ・新人看護師同士での交流で、同じことで悩んでいる人がいることを知り、自分だけではないと不安が少し緩和された。
- ・他院での取り組みも聞くことができ、情報共有ができた。

まとめ

研修受講者は19施設70名で、地区別にみると県南5施設18名、県央6施設28名、県北8施設24名であった。職種は、看護師65名（92.9%）、准看護師5名（7.1%）で、全員医療施設で勤務していた。研修は、第1回～第6回はオンライン研修とし、3地区ごとに配信した。受講者の反応としては、研修内容によってはオンライン研修でよいという意見があった。理由として、コロナ禍での研修受講のため安心して受講できたことやオンライン研修でも内容はよく理解できたということなどであった。第7回以降は対面で行った。研修後アンケートでは、すべての項目において高得点で、「実践につながる知識や技術が多く得られた」「具体的に研修があったので充実感があった」と満足度も高かった。次年度も参加しやすい研修となるよう企画したい。今年度、看護職員交流会は3回開催し、本研修の必修科目とした。同世代で思いを共有することでリフレッシュでき、「ポジティブになるいい機会」と高評価で、自己の成長を確認でき、不安軽減につながる効果がみられた。